

令和5年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	教科指導		
重点課題	基礎学力の定着に向けた教科指導等の改善		
現 状	<p>昨年度、義務教育段階の学習内容を自学自習で学び直す時間「リスタ」（タブレット使用）を放課後に実施したところ、以下のような結果であった。</p> <p>①学び直しに「やりがい」を感じた生徒の割合が48%だった。</p> <p>②基礎力診断テストの国語と数学の義務教育範囲の得点率が上昇した。（国8%、数3%） 進学や就職で困難な状況が予想される成績区分D3の生徒は41.2%だった。</p> <p>③授業における学び直しについて検討し、実施状況を把握する機会がなかった。</p>		
達成目標	生徒（1・2学年）の目標		教員の目標
	①学び直しに「やりがい」を感じる生徒の割合 ➡60%以上	②-1基礎力診断テスト各教科得点率 ➡前回より上昇 ②-2基礎力診断テストD3の生徒の割合 ➡30%以下	③授業等における学び直し教材の活用機会 ➡昨年度より多くする
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が進捗状況を把握できるように視覚化する。 基礎力診断テストで学び直しの成果が感じられるようにする。 学び合える時間等を「リスタ」の中に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テスト前に、出題範囲を配信し、集中して学習するように促す。 各教科で共通する苦手分野をもつ生徒を集めて、補習を実施するなどの取組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が学び直し教材を活用できるように環境整備を行う。 学び直しについて教科会議やワーキンググループで検討し、実施状況をまとめ、教育課程委員会や職員会議で報告する。
達成度	①学び直しに「やりがい」を感じる生徒の割合 ➡1年生：59.5% ➡2年生：34.0%	② 2学年の方針により、今年度は基礎力診断テストを実施しなかった。来年度の4月に実施予定。	③授業等における学び直し教材の活用機会 ➡新たに教科部会を設定し、検討した。
具体的な取組状況	<p>(1) リスタのアンケート結果</p> <p>○1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強が好きか 17.4% 知識や学力 65.2% 高校学習に役立つ 56.2% 今後続けたい 59.5% <p>○2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強が好きか 13.6% 知識や学力 35.9% 高校学習に役立つ 33.0% 今後続けたい 20.4% <p>(2) 考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の結果から1学年では、約6割の生徒がリスタの学び直しにやりがいを感じ、高校の学習内容にも役立つと回答した。 2学年では、1年次に48%だった「やりがい」が34%に下がり、改善が必要。 	<p>(1) 1学期の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットに担当教員から配信された課題に黙々と真面目に取り組む生徒がいる一方、寝ている生徒やタブレットで関係のないサイトを見ている生徒も見受けられた。 2桁の引き算にも苦手意識があるなど、個別のフォローが必要な生徒がいることが分かった。 <p>(2) 2学期の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの結果から成績区分がDの生徒を別室に集め、50分授業を前半と後半に分け、数学と英語の基礎的な課題について解説後、タブレットではなく印刷したプリントに取り組みさせた。教員3名で個別に指導した。 その結果、四則演算の問題に自信を持った生徒や単語の練習に、教員の励ましもあり、粘り強く取り組む生徒や教員から褒められて喜ぶ生徒の姿も見られた。 	<p>(1) 全教員にClassiのアカウントを配付し、動画や問題を活用できるように整備した。</p> <p>(2) 今年度は新たに学び直しの教科部会を設定した。各教科で「卒業までに必ず身に付けさせたい基礎・基本」を検討し、来年度の4月の授業から実施できるようにした。</p> <p>(3) 新入生テストの廃止に伴い、基礎力診断テスト（スタート回）を導入し、入学時点の基礎学力を確認し、授業中の指導に活かせるようにした。</p>
評 価	C	C	B
学校評議員の意見	基礎学力テストで「進学・就職で困難な状況が予想される」レベルの生徒の割合が41.2%は、かなり高いと感じる。生徒が「やりたい」と思える学び直しを行うことが大事だと感じる。		
次年度に向けての課題	<p>①授業中の「学び直し」の実施状況について各教科から報告してもらおう。</p> <p>②各学年で定期的に基礎力診断テストを受験し、基礎学力の定着度を継続して確認する体制を整える。</p>		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した)

令和5年度 上市高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	生活指導
重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応
現 状	①「基本的な生活習慣の確立」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手の生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③携帯・スマートフォンの校内使用違反者数は、年間延べ数でR3年度より10%増加した。近年増加傾向にあり、指導のあり方を確認し、保護者と連携をしながら校内での取り扱いを徹底している。また、友人関係のトラブルの原因のほとんどがSNSの利用方法と関連しており、生徒のSNS利用のマナーを向上させることが求められる。ネットパトロールによる指導は、減少しているものの生徒が重大犯罪に巻き込まれないためにも、引き続き指導が必要である。
達成目標	①②年間の遅刻生徒回数の減少に向けて、生徒の意識改善を促す指導の充実 ③携帯電話の違反数(ルール違反・ネットパトロールによる指導)の指導件数の減少 ①②前年比10%の減少 ③前年比10%の減少(R4年度4.8%増加)
方 策	①②遅刻回数が多い生徒には、5分前に着席完了できるように生徒の自己管理と意識改善を促す。毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。 ③生徒理解と家庭との連携に努めている。教育相談の充実や教職員間の共通理解と連携強化がさらに必要である。生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、生徒・保護者の意識の改善を図る。
達成度	①遅刻回数については、前年度と比較すると1学期163件、2学期189件(48.6%増)と大幅に増加する結果となった。原因として、基本的な生活習慣の乱れや規範意識が低かったこと等があげられる。今後、遅刻回数が多い生徒に対して個別に生活習慣の見直しを促すとともに、家庭との連携を図り、粘り強く指導をしていく必要がある。 ②定期頭髪服装指導で再指導を必要とした生徒は、1学期9.3%、2学期25.5%、3学期17.5%で平均17.4%と昨年より改善が見られ2.4%低い結果であった。減少した理由として、昨年度生徒会と話し合いを行い、男子の髪型の規定を見直したことで生徒の意識に変化が見られたことが考えられる。今後も継続して生徒の内面からの成長も促しながら指導し、同時に生徒との対話を通じて頭髪服装の規定について検討を続けたい。 ③2学期末で、スマートフォンの使用違反延べ数は188件で、昨年同時期より13%減少した。主な要因として、各学年による指導の徹底が挙げられる。引き続き全校生徒への指導に加え、学年との協力体制を整え、生徒の実態に応じた個々の指導を行うとともに家庭にルール作りの大切さを理解してもらい協力してもらうことが必要である。
具体的な取組状況	①②毎朝の上市駅や生徒玄関前での挨拶や服装指導の声かけを教員だけでなく、さわやか委員の生徒と一緒にしながら、生徒主体の取り組みや生徒間での意識作りを大切にしている。また、生徒自らが毎月の指導重点目標を設定し、放送で呼びかけながら、具体的な目標をもって生活できるようにしている。また、図書部が行っている朝読書を遅刻防止にもつなげ学校全体の取り組みとした。 ③着こなしセミナー、ネットトラブル教室、薬物乱用防止教室、性教育、交通安全教室などの外部の専門家の講話を通して生徒の安全と規範意識を高めるように指導している。
評 価	B
学校評議員の意見	社会の決まり、会社の決まりを守ることは将来大事になる。まず校則を守って、その上で自分の主張をする生徒になってほしい。
次年度に向けての課題	①服装違反、スマートフォンの使用違反に対する指導の継続と家庭でのルール作りを進める指導。 ②将来を見据え、基本的な生活習慣の確立やルール・マナーを守る姿勢、我慢と思いやりの心を育てる指導。 ③遅刻常習などの原因を生徒と考え、保護者の理解と協力を得て根本的な問題解決を図る指導。

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状のまま D : 後退した)

令和5年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路指導		
重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
現 状	①進路目標の設定が遅れる生徒はしっかりとした職業観を育てていく必要がある。 ②県内外進路研修、インターンシップなど多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていく必要がある。		
達成目標	1 学年 ①進路研究を深めるため、県内を中心とした体験的行事に積極的に参加させる。 ②県内等の体験的行事に年2回以上参加した生徒の割合が30%以上	2 学年 就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合100%	3 学年 ①第一希望の進学合格率90%以上 ②就職内定率90%以上
方 策	①-1 上市高校キャリア教育プログラムの「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。 ①-2 北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、学校推薦型選抜を含め多様化が進む入試システムに対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。 ②-1 新型コロナウイルス感染の沈静化で景気が上向きつつあるものの、求人動向が上向きには時間がかかる。生徒の求職活動を十分に支援するために、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。 ②-2 オープンキャンパスや各種施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。 ②-3 教職員の進路研修の一環として、主に進学実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。		
達成度	②26%	43% (就職希望者40名中17名参加)	①87% (進学希望者82名中71名) ②93% (内定者57名中53名)
具体的な取組状況	①-1 例年どおり、「職場見学」「インターンシップ」を実施した。「職業を知る会」は総合学科教育研究会北信越大会が開催されたため、秋にも開催し、21社の参加があった。 ①-2 生徒向けの大学・短大等からの入試情報を、配付物を通じて連絡した。保護者のみに向けた資料は配付できなかった。 ②-1 求人票公開前の6月に、昨年度求人があった企業10社に今年度もいただけるかを電話で確認した。その結果、今年度求人票をいただけない企業が事前に判明した。 ②-2 オープンキャンパスや説明会などの資料を進学実績のある大学等を中心に、積極的に全クラスに配布した。 ②-3 4月から5月は3学年担当者中心に説明会資料を配布した。生徒の出願状況が明確になった7月以降は1・2学年担当者用に配布した。		
評価	B	C	B
学校評議員の意見	職業を知る会や職場見学、インターンシップ、キャリアバイト、ボランティアなどを通して、上市高校とつながりを持って行きたい。		
次年度に向けての課題	<進学> ・国公立大学の合格に向け、早めの進路指導を進める。 ・指定校の開拓・進学希望が多い私立大学・短大等を2学年と連携し早期に把握したうえで、大学・短大等に指定校の依頼をする。 <就職> ・企業訪問の実施・新型コロナ感染拡大後、自粛していたが、主に進路指導部員を中心に教員が企業を訪問し、卒業生の状況や求人予定等をうかがう。 ・ハッピー上市会への職員参加・3学年や進路担当者で希望があれば、参加してもらい、町内企業や役場職員との交流を深める。		

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

令和5年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	ボランティア活動、異年齢交流や部活動を通しての学校生活の充実	
現 状	<p>①校内外の行事に対して生徒会執行部は活発だが、一般生徒の意識はそれほど高くない。令和4年度はボランティアサポーター登録数108名だったがコロナ禍のためこれまでのようには活動できず参加延べ人数46名しか校外ボランティアに参加できていない。また、希望しても無断で欠席するなど活動意欲が不十分な生徒も見受けられる。</p> <p>②部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られていた。継続して部活動を続けている生徒は、全体の76.1%である。令和4年度は全学年平均84.5%の生徒がやりがいを感じて最後まで継続して部活動に取り組みたいと答えている。</p>	
達成目標	①ボランティア等の校外活動への参加数 延べ人数 150名以上	②部活動にやりがいを感じて最後まで継続 したい生徒の割合 90%以上 (12月にアンケート実施)
方 策	①生徒会及び各種委員会と連携を図りながら、活動の輪をひろげる。また、地域交流や校内外でのボランティア活動、クリーン活動、家庭クラブ活動に対する広報活動を促進し、主体的に参加することへの意欲を高める。	②新入生の部活動を希望制とすることで意欲のある者達の活動を目指す。部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。また、部長会議を前期後期各2回以上実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・1月末現在、ボランティアサポーター登録数84名、校内で把握しているボランティア参加者数は72名、クリーン活動参加者は38名、家庭クラブでのボランティア参加者は13名で延べ123名であった。このほかにも、各地の児童クラブや社会福祉協議会主催の行事に個人的に参加する者達もいて、実数とすれば目標の150名程度は活動したと思われる。 ・ボランティアサポーターの登録者数は年々減少してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月に「部活動アンケート」を実施した。「部活動で自分なりの目標を達成できた」という生徒が、1年で62.8%、2年で56.1%、3年で89.1%、全校では68.0%という結果になった。また、「やりがいを感じて最後まで継続したい」生徒の割合は全校で約71.8%であり、中でも3年間継続した3年生が83.7%とよりやりがいを感じていた。 ・今年度より、1年生の部活動は希望制としたところ82.7%の加入となり、全学年では63.7%の加入率となった。全員加入でなくなった分、意欲的な生徒の割合が増えてきていると感じる。
具体的な 取組状況	<p>①コロナ禍で例年行われていた行事が途切れていたため、生徒自身が見通しをもって活動を行うことが難しいことが多かったように思われる。その中でも生徒会執行部が中心となって、上市町や滑川市の行事に生徒が参加した。</p> <p>②部長会議を何度か行うなかで、部長達に自覚をもたせ、各部活動が活性化するように働きかけた。しかし、アンケートの回答では「部員が集まるものまともな活動ができていない」との意見も複数出てきて、やりがいや満足度の低下につながったと考えられる。</p>	
	B	D
	高校生は視野が狭くなりがちなので、ボランティア活動を通して地域交流を深め世界を広げてほしい。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部、文化部ともに、活動の活性化を図るために、引き続きエキスパートや外部コーチの活用を進める。 ・部活動に登録しながらも参加が不十分な生徒への働きかけや意欲の喚起を図る。 ・ボランティア等の校外活動でも、多くの生徒が活躍できる環境作りに努める。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:後退した)